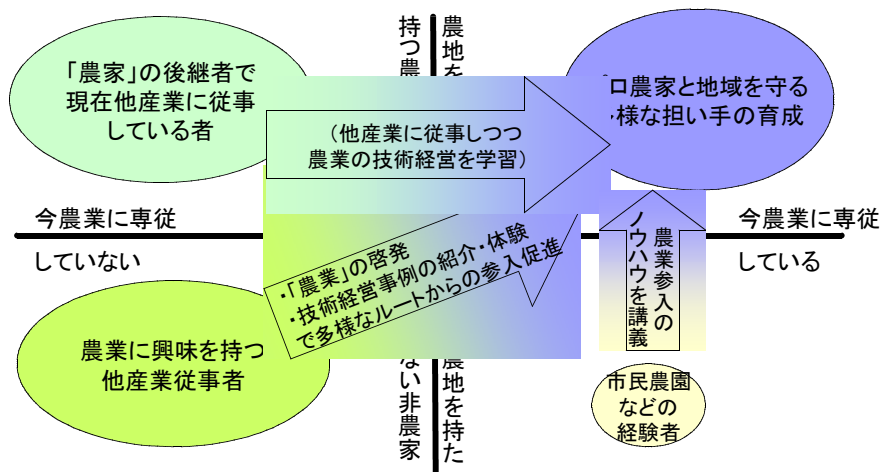


|                      |   |
|----------------------|---|
| 重点取組名                | かがわアグリ塾による就農者の確保・育成   |
| 普及活動担当               | 香川県農業経営課 担い手グループ<br>専門普及指導グループ  |
| 主要な活動地域・対象農業者        | 香川県全域<br>現在は他産業に従事しているが、農業に興味があり、将来就農を希望する者。  |
| 取組結果・成果<br><取組みのねらい> | <p>本県の基幹的農業従事者は年々減少傾向にあり、農業振興と地域の活性化を図るためには、他産業従事者からの就農ルートを確立する必要がある。そこで、現在の仕事を継続しながら、農業技術が習得できるシステムを持った「農業基礎講座」を実施して、農家・非農家にかかわらず、意欲と能力に優れた新規就農者を確保・育成する。</p> <p><b>1. 農業基礎の講義、実習</b><br/>農業の基礎技術については、第1段階として、5月～8月にかけて東地区（高松市）と西地区（満濃町）の2カ所で、週末に2時間程度の夜間講義を開催した。さらに、県立農業大学校と連携の上、野菜、果樹、花きの体験実習（選択制）等を実施して、農業への理解と今後の就農への意識付けを図った。（目標値：80名、達成値：59名）<br/>受講者が興味のある作目の基礎講座を選択できるようにしたことで、効率的な運営が図られた。また、土日の休日に体験実習を組み込むことで、農業への適性を自己評価する機会を提供できた。</p> <p><b>2. プロセスシート等を活用した経営モデルの策定と提案</b><br/>受講者全員に対して、1人30分程度の個別面談を実施し、①かがわアグリ塾への期待や具体的要望、②農業に対する個人的な意見、③営農条件（農業経験等）を聞き取り、受講者の就農意欲等を評価した。特に、就農が見込まれる受講生については、第2段階として、営農評価・計画システム（FAPS）による具体的な営農計画の説明を行い、農業経営に対する啓発を行った。（目標値：30名、達成値：27名）<br/>農業の志や就農のタイミングにより想定される代表的な階層とその階層ごとの就農促進の基本ニーズを明らかにすることで、受講者に対して最適な営農計画を設計、提供することができた。</p> <p><b>3. 女性の経営参画に向けた環境整備</b><br/>女性に対しては、女性農業者の交流と情報交換を促進するセミナーに誘導して、家族経営協定と農産加工技術等の情報を提供した。（目標値：16名、達成値：4名）<br/>農業経営に参画している女性との交流により、就農意識の方向性を明確にできた。</p> <p><b>4. 就農活動の推進</b><br/>第1段階終了後に交流会を開催して、農業委員会、JA、経営支援センターとの個別協議へ誘導するとともに、企業的農業経営体への就農支援を推進した。また、新規就農予定者への地域段階での指導、支援については、関係農改センターに引き継ぎを行った。（目標値：10名、達成値：4名）<br/>アグリ塾修了者や先進農業者等と交流することで、就農意欲の醸成が図られた。</p> <p><b>5. Web指導の推進</b><br/>過去2年間のアグリ塾には、就農までの数年間、継続的に就農支援を行う体制が整備されていなかった。そこで、ITによる継続した技術指導を実施するために、情報提供システム（かがわアグリネット）を構築した。（目標値：80名、達成値：58名）<br/>経営タイプによる基本方針を具体的に示した栽培技術等をWebに公開することで、時間等の制約を受けずに自己学習が可能になった。</p> |
| 連携機関、協議会等            | <総合対応>香川県新規就農相談センター、香川県農業会議<br><個別対応>農改センター、県立農業大学校   |
| 取組の特徴や取組に際しての工夫      | 当初、アグリ塾の基礎講座と実習については、県内農業の総論的内容の紹介を行うワンウェイの対応であったが、過去2カ年間の取り組みの反省と受講者のアンケート結果等を参考にして、受講生のニーズを①趣味の農業、②週末農業、③定年退職後のシルバー農業、④プロ農家志向の4つのカテゴリーに分類し、それぞれの志向に必要な農業情報を提供できるように配慮した。  |

# かがわアグリ塾とは？

他産業従事者を対象とした就農促進＋啓発講座(H15年～)



## 講義内容と体系

### マスコミでの公募

#### 第1段階

- (1) 就農の基礎知識:香川の農業プロフィール、農地・農政・関係機関の概要等
- (2) 生産技術の基礎、作物別技術講座、体験学習、新規就農者との意見交換、農業機械実習

#### 第2段階

- (1) 希望者の就農個別面談、経営計画立案支援
- (2) 優良経営事例紹介、先進農家視察研修、

第1段階で閉講式、希望者は次のステップへ

#### 第3段階

- (1) 就農希望者の認定就農計画作成個別支援
- (2) JA,普及センター、農業委員会等を交えた協議



### <今後の課題>

#### 1. 農業基礎の講義、実習

受講者の意識格差が大きく、アグリ塾は就農促進講座であることをよく理解せずに参加した受講者が散見された。農業に興味がある一般県民とプロを目指すアグリビジネス参入希望者を同一講義で対応することは困難な点があり、後者に特化した研修体系が必要である。

単年度対応では、新規就農希望者に対するフォローが不十分である。数年後に就農を希望する者に対して、情報提供や研修を継続的に実施できるシステムを検討したい。

#### 2. プロセスシート等を活用した経営モデルの策定と提案

営農計画は、個人の「人生設計」に配慮した現実性の高い計画樹立が望まれている。

